

第27回 日本トキシコロジー学会学術年会

The 27th Annual Meeting of The Japanese Society of Toxicology

会期：平成12年6月28(水)～30日(金)

会場：パシフィコ横浜

220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

TEL:045-221-2155(代表) FAX:045-221-2136

年会会長：遠藤 仁 (杏林大学医学部薬理学)

企画委員：黒川 雄二 (国立医薬品食品衛生研究所)

鈴木 勉 (星薬科大学薬品毒性学)

土井 邦雄 (東京大学大学院農学生命科学)

遠山 千春 (国立環境研究所環境研究部)

松澤 利明 (山内製薬株式会社)

吉田 武美 (昭和大学薬学部毒物学)

※ 50音順

年会事務局

181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2
杏林大学医学部薬理学教室内 (武田 理夫)
TEL:0422-47-5511 内線 3452 FAX:0422-79-1321
Takedam@kyorin-u.ac.jp

事務局
(学会期間中)

220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL:045-221-2155 (代表)

年会長の挨拶

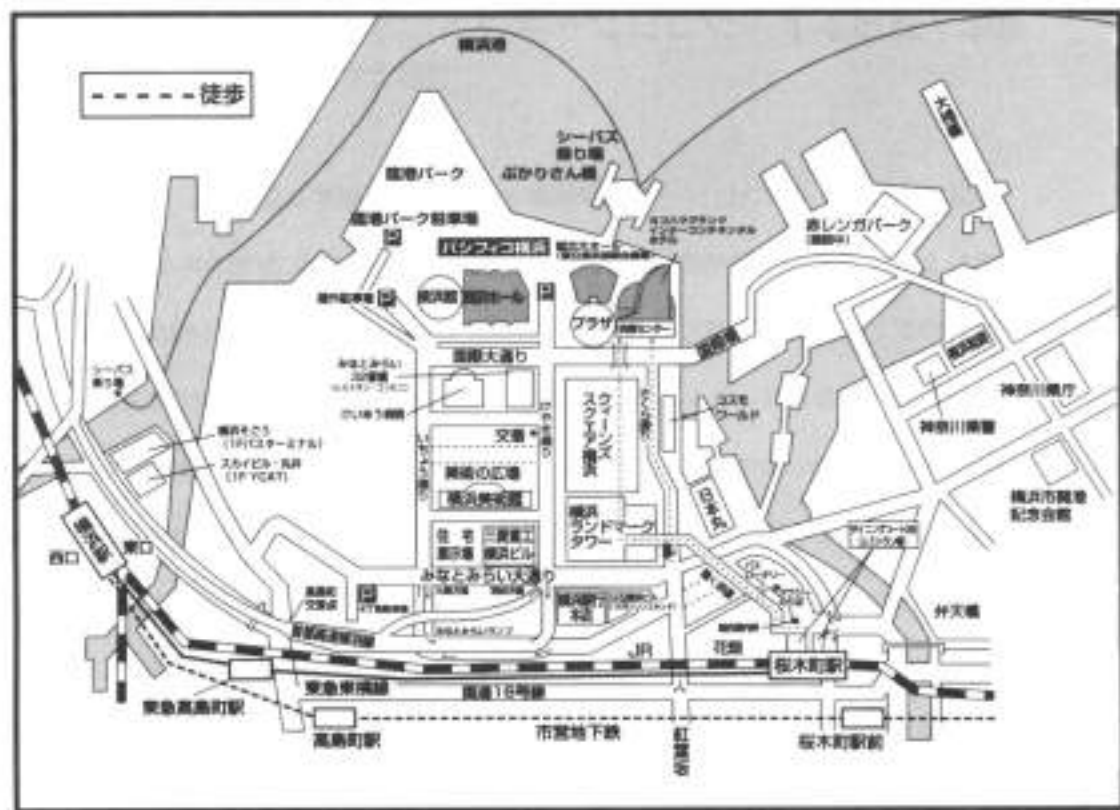
第27回日本トキシコロジー学会学術年会開催にあたって

杏林大学医学部教授 遠藤 仁

第27回日本トキシコロジー学会学術年会を横浜で開催するに当たり、一言御挨拶申し上げます。今年の年会は20世紀最後に当たり、世界的にみたトキシコロジー研究のまとめを軸に企画しました。これはとりも直さず、21世紀への“かけ橋”的内容となります。3人の外国人演者にはこの主旨にふさわしい特別講演をお願い致しました。シンポジウム、ワークショップ及びセミナーにおいても現在までの科学的そして社会的に動向が注目されているテーマを取り上げました。トランスポーター研究の進展には近年目覚ましいものがあり、トキシコロジーとの関連を中心に企画しました。また、世界的に拡大するdrug abuseと深く関係する精神行動毒性の評価の問題、次世紀への期待される医薬品の創生との関連をもつ核内ステロイド受容体PPARの問題を加えた、シンポジウムを企画しました。ポストゲノムプロジェクトの時代においてpharmacogenomics あるいはtoxicogenomicsに深く関係する重要なテーマとしては、研究の進歩が著しいテーマである遺伝的多型及び遺伝子改変動物がトキシコロジー研究に与える課題を取り上げていただきました。また新薬開発における新たなガイドラインが作成され、今そのあり方が問われておりますので技術的な内容をワークショップとして、その他をセミナーとして企画致しました。また毒性質問箱は昨年に続き企画させていただきました。

今回の学術大会が新たな世紀への研究進展のきっかけになりますことを切に念じております。

会場へのアクセスのご案内



■桜木町より（JR京浜東北線、京浜急行線、東急東横線）

徒歩（歩く歩道で約12分）

バス（市営バス4番のりば「パシフィコ横浜行き」130、131、140、141系統 約5分）

タクシー（約5分）

■横浜駅より（JR東海道本線、JR横須賀線、京浜急行線）

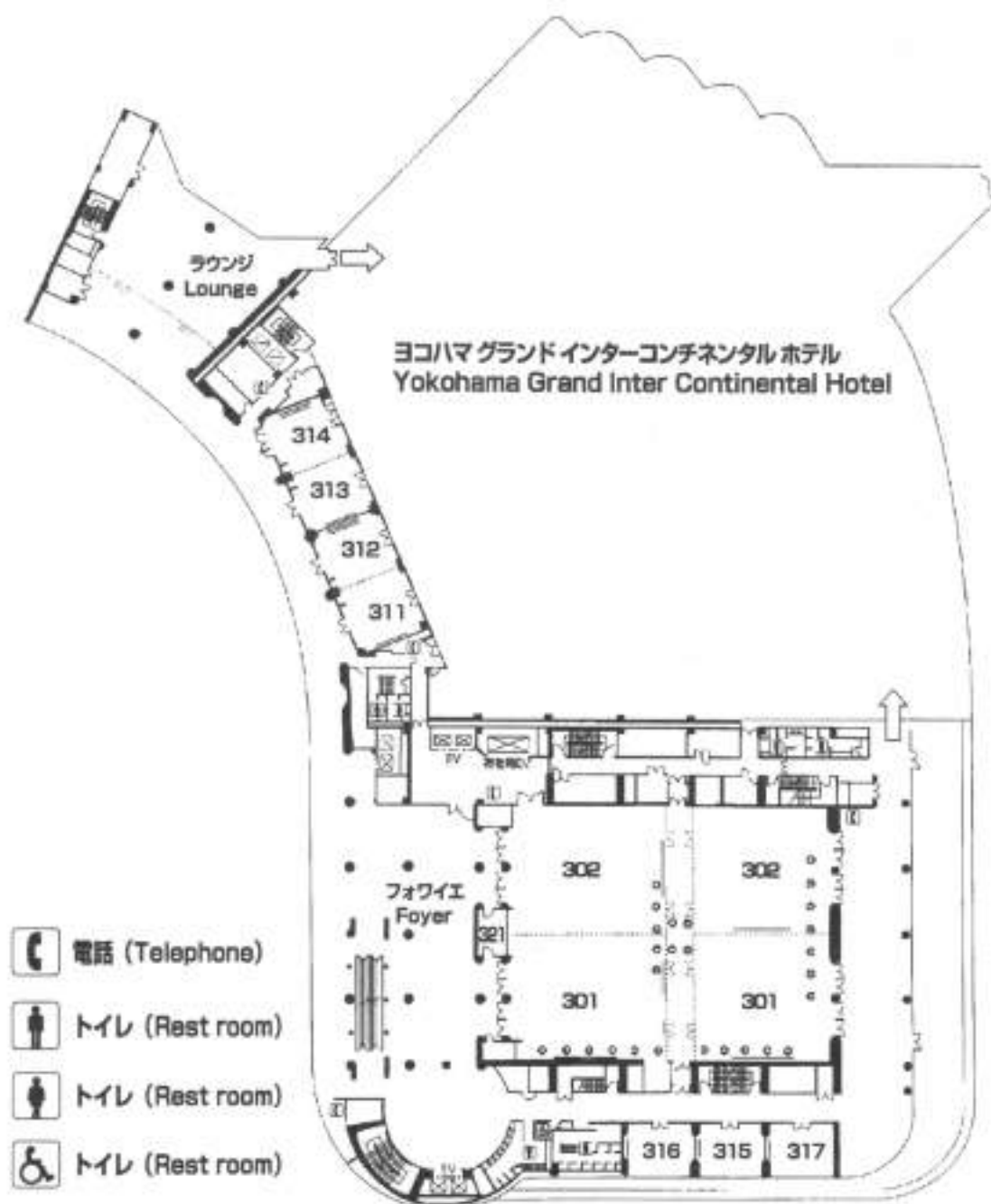
バス（東口そごう1Fバスターミナル 市営バス17番のりば「パシフィコ横浜行き」141系統 約10分）

タクシー（東口ポルタB2F内タクシーのりば 約10分）

シーバス（海上バス横浜そごう駐車場1F隣シーバスのりば 約10分）

交通案内（テープ）045-221-2166

会場内のご案内



参加者へのご案内とお願い

■ 総合受付・参加登録

当日参加登録	6月28日(水)	8:30~17:00
	6月29日(木)	8:30~17:00
	6月30日(金)	8:30~17:00

■ 当日受付の参加登録費、懇親会費

学会員	10,000円
非会員	12,000円
学生会員	6,000円

懇親会費	10,000円
------	---------

■ ネームプレート

年会参加者は必ず所属・氏名を明記したネームプレートを着用して下さい。
ネームプレートを着用していない方は入場をお断りいたします。

■ クロークのご案内

クロークを用意しておりますのでご利用下さい。利用時間は以下のとおりです。

6月27日(火)	12:00~17:00
6月28(水)・30日(金)	8:30~17:00
6月29日(木)	8:30~20:00

■ ドリンクサービス

ドリンクサービスコーナーを設置致しております。ご自由にご利用下さい。

■ お食事の御案内

お食事は周辺の飲食店をご利用下さい。
受付に飲食店マップをご用意致しております。

■ 禁煙についてのお願い

発表会場内は全会場禁煙とさせていただきます。喫煙は指定の場所をお願いいたします。

■ 年会事務局

年会期間中の事務局は3階316号室です。

■ 掲示板と緊急連絡先

3階総合受付前に掲示板を設置、連絡事項等を掲示致します。
また、学会参加者相互の連絡等にご自由にご利用下さい。

■ 講演発表の方へ

30分前までに当該会場の「スライド受付」で受付をして下さい。
所定の発表時間を厳守して下さい。

一般講演：発表8分＋質疑応答4分＝計12分

スライドは35mmフィルム（ライカ版）で、一般講演では10枚以内とさせていただきます。

スライドの併写はできません。同一のスライドを2回以上使用する場合は、映写回数分をご用意下さい。

講演終了後、使用スライドを忘れずに受け取って下さい。

J. Toxicol. Sci. に掲載する英文抄録を総合受付の「英文抄録用の受付コーナー」の担当者に提出して下さい。

■ ポスター発表の方へ

発表者は、ポスター受付で発表者用リボンと画紙を受け取って下さい。

内容の表現は発表者の自由といたしますが、1～2m離れた位置から十分に読める程度の大きさの文字を使用して下さい。

縦210cm×横90cmのパネルと演題番号を用意します。発表者は演題番号の右の縦20cm×横70cmのスペースに演題名、所属、発表者（発表者名に○印）を明示して下さい。

J. Toxicol. Sci. に掲載する英文抄録を総合受付の「英文抄録用の受付コーナー」の担当者に提出して下さい。

■ 座長の方へ

セッションの始まる15分前までに該当会場のスライド受付まで御連絡下さい。

各種委員会・集会の日程と会場

● 6月27日(火)

理事・幹事会	15:00~17:30	(3階 316)
第26回日本トキシコロジー学術年会 企画委員会	11:00~14:00	(4階 421)

● 6月28日(水)

国際認定トキシコロジスト委員会	12:00~13:00	(3階 316)
編集委員会委員会	12:00~13:00	(4階 419)
認定試験小委員会	12:00~13:00	(3階 317)

● 6月29日(木)

血液精製毒性研究交流	11:00~14:00	(4階 421)
評議員会	12:00~13:00	(3階 301、302)
総会	13:00~	(3階 301、302)
懇談会	18:00~20:00	(3階 303、304)

● 6月30日(金)

用語集作成委員会	12:00~13:00	(3階 316)
生涯教育講習会小委員会	12:00~13:00	(3階 317)

第27回日本トキシコロジー学会学術年会（横浜）

会場と催し物のご案内

6月28日（水）

	3階 301, 302	3階 303	3階 304
9:00	セミナー I 「安全性薬理試験のあり方」 オーガナイザー： 藤森観之助 先生 馬屋原 宏 先生	一般演題 「毒性試験法」 「一般毒性 1」 「一般毒性 2」	一般演題 「変異原性、癌原性、 発癌性」 「免疫毒性」
12:00	昼 休 み		
13:00	セミナー II 「ICHガイドラインの 果たした役割と問題点」 オーガナイザー： 大野泰雄 先生 島田弘康 先生	一般演題 「腎毒性」 「肝毒性」 「循環器（心、血管）毒性」	一般演題 「神経毒性」 「内分泌攪乱物質 1」 「内分泌攪乱物質 2」 「細胞毒性」
17:00	コントラクトラボ展示（3階 311, 312, 313, 314）（終日）		

6月29日(木)

	3階 301	3階 302	ラウンジ	3階 303,304
9:00	シンポジウム 1 「臓器毒性と トランスポーター」 オーガナイザー： 金井好克 先生 杉山雄一 先生	シンポジウム 2 「精神行動毒性」 オーガナイザー： 鈴木勉 先生 鍋島俊隆 先生		
11:00	昼 休 み		ポスター展示	
12:00				評議員会
13:00	1. 総会 2. 田辺賞授賞式 特別講演 1. Dr. Glenn Sipes (司会：黒川雄二 先生) 2. Dr. Arthur Craigmill (司会：佐藤哲男 先生) 3. Dr. MW Anders (司会：遠藤 仁 先生)		ポスター展示	
14:00				
15:00				
15:50				
16:40				
17:30	コントラクトラボ展示 (3階 311~314)(終日)		18:00	懇親会
			20:00	

6月30日(金)

	3階 301	3階 302	3階 303
9:00	シンポジウム 3 「核内ステロイド 受容体の毒性への関与」 オーガナイザー： 須賀哲弥 先生 吉田武美 先生	ワークショップ 1 「遺伝的多型と毒性」 オーガナイザー： 鎌瀬哲也 先生 山添 廣 先生	コントラクトラボ セミナー 「毒性員間席： トキシコロジストの抱える 毒性に関するQ&A」 オーガナイザー： 渡辺 烈 先生 野村 護 先生 松本一彦 先生
12:00		昼 休 み	
13:00	ワークショップ 2 「毒性評価系のための 遺伝子改変動物の活用」 オーガナイザー： 井上 達 先生 遠山千春 先生	ワークショップ 3 「安全性評価における 技術的な課題」 オーガナイザー： 松澤利明 先生 飯塚公夫 先生	
16:00			
17:00	コントラクトラボ展示 (3階 311, 312, 313, 314)(終日)		

■ 特別講演

■ 特別講演 1.

6月29日(木) (3階 301, 302) 15:00~15:50

● PL-1

「Ovarian Toxicity of 4-vinylcyclohexene epoxides.」

I. Glenn Sipes (University of Arizona, President of IUTOX, USA)

司会：黒川雄二 (国立医薬品食品衛生研究所)

■ 特別講演 2.

6月29日(木) (3階 301, 302) 15:50~16:40

● PL-2

「International Harmonization of Certification for Toxicologist」

Arthur Craigmill (University of California, Davis, President of American Board of Toxicology, 1999-2000, USA)

司会：佐藤哲男 (昭和大学薬学部)

■ 特別講演 3.

6月29日(木) (3階 301, 302) 16:40~17:30

● PL-3

「Glutathione-Dependent Toxicity」

M.W. Anders (University of Rochester Medical Center, USA)

司会：遠藤仁 (杏林大学医学部)

■ 田邊賞受賞講演

司会：吉田 武美（昭和大学薬学部）

遠藤 仁（杏林大学医学部）

■ 受賞講演 1. 14:10～14:30

[Characterization of epididymal sperm motion and its correlation with stages of target cells in rats given α -chlorohydrin, cyclophosphamide or nitrazepam]

The Journal of Toxicological of Sciences, 24(NO.3)187-197, 1999

森 眞輝（(株)資生堂ライフサイエンス研究センター）

■ 受賞講演 2. 14:30～14:50

[Induction of unscheduled DNA synthesis in hairless mouse epidermis by skin carcinogens]

The Journal of Toxicological of Sciences, 24(NO.3)217-226, 1999

兼藤 雅子（塩野義製薬(株)新薬研究所）

■ シンポジウム

■ シンポジウム1. 6月29日(木) 9:00~11:00 (3階 301)

「臓器毒性とトランスポータ」

オーガナイザー：杉山 雄一（東京大学大学院薬学系研究科）

金井 好克（杏林大学医学部）

● S1-1

Overview：トランスポーターを利用した毒性の回避

○ 杉山 雄一、加藤 将夫（東京大学大学院薬学系研究科製剤設計学）

● S1-2

薬物性腎障害とトランスポータ

○ 武田 理夫、遠藤 仁（杏林大学医学部薬理学教室）

● S1-3

血液脂質門トランスポーターと中枢毒性

○ 辻 彰、玉井 郁巳（金沢大学薬学部）

● S1-4

メチル水銀等毒物の血液-組織間門通過の分子機序

○ 金井 好克、車 碩鎭、金 徒慶、遠藤 仁（杏林大学医学部薬理学教室）

■ シンポジウム2. 6月29日(木) 9:00~11:00 (3階 302)

「精神行動毒性の評価」

オーガナイザー：鈴木 勉（星薬科大学）

鍋島 俊隆（名古屋大学医学部）

● S2-1

精神行動毒性の評価法

○ 安東 潔（(財)実験動物中央研究所 科学技術振興事業団）

● S2-2

覚醒剤による精神行動毒性の評価

○ 喜多 大三、中嶋 敏勝（奈良県立医科大学薬理学）

● S2-3

オピオイドによる精神行動毒性の評価

○ 成田 年、鈴木 勉 (星薬科大学薬品毒性学教室)

● S2-4

フェンシクリジン (PCP) による精神行動毒性の評価

○ 野田 幸裕、島 俊隆

(名古屋大学大学院医学研究科医療薬学 付属病院薬剤部)

■ シンポジウム3. 6月30日 (金) 9:00~12:00 (3階 301)

「核内ステロイド受容体PPARの薬効・毒性への関与」

オーガナイザー：須賀 哲哉 (東京薬科大学薬学部)

吉田 武美 (昭和大学薬学部)

● S3

核内ステロイドホルモン受容体 (PPAR) の薬効・毒性への関与

○ 須賀 哲哉 (東京薬科大学薬学部)

● S3-1

PPAR の構造と機能

○ 河田 照雄、高橋 信之

(京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻生研機構 肥満・脂質代謝研究プロジェクト)

● S3-2

PPAR α -ノックアウトマウスにおけるエタノール依存性障害の発症機構の解析

○ 青山 俊文¹⁾、中島 (那須) 民江²⁾

(¹⁾ 信州大学医学部加齢生化学、²⁾ 信州大学医学部衛生学)

● S3-3

糖尿病と肥満におけるPPAR γ の病態生理学的意義

○ 門脇 孝 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病 代謝内科)

● S3-4

PPAR γ とインスリン感受性増強薬

○ 古政 康直、井上 元、西村 治男、中尾 一和

(京都大学医学研究科臨床病態医学 第2内科)

● S3-5

PPAR とフタル酸エステルの毒性

○ 今井田 克己、白井 智之（名古屋市立大学 医学部 第一病理）

● S3-6

PPAR：非遺伝子毒性発癌における役割

○ 渡辺 隆史、本木 喜輝、高木 充弘、山田 純司、須賀 哲弥
（東京薬科大学 薬学部 臨床生化学教室）

■ ワークショップ

■ ワークショップ1. 6月30日(金) 9:00~12:00 (3階 302) 「遺伝子多型と毒性」

オーガナイザー：鎌滝 哲也(北海道大学大学院薬学研究科)
山添 康(東北大学薬学部)

● W1-1

毒性学における遺伝的多型：まとめ

- 鎌滝 哲也(北海道大学大学院薬学研究科)

● W1-2

チトクローム P450 の遺伝的多型とその毒性学的意義：
CYP2A6 を中心として

- 有吉 範高¹⁾、宮本 昌美¹⁾、梅津 有理¹⁾、國頭 英夫²⁾、秋田 弘俊³⁾、
澤村 祐一⁴⁾、横田 淳⁴⁾、根本 信雄⁵⁾、佐藤 邦雄⁶⁾、鎌滝 哲也¹⁾
(¹⁾ 北海道大学大学院薬学研究科、²⁾ 国立がんセンター、³⁾ 北海道大学医学部、
⁴⁾ 丸山クリニック、⁵⁾ 富山医科薬科大学、⁶⁾ 群馬大学医学部)

● W1-3

チトクローム P450 の遺伝子多型と発癌感受性について：
CYP1B1 を中心として

- 渡辺 潤子¹⁾、島田 力²⁾、川尻 要¹⁾
(¹⁾ 埼玉がんセンター研究所、²⁾ 大阪府立公衆衛生研究所)

● W1-4

薬物代謝酵素遺伝子多型の簡易迅速検出法の確立とその臨床応用

- 平塚 真弘、水柿 道直(東北大学医学部附属病院薬剤部)

● W1-5

異物代謝における3 α -ヒドロキシステロイド脱水素酵素の役割と多型

- 原 明(岐阜薬科大学学生化学教室)

● W1-6

第II相薬物代謝酵素の遺伝子多型と疾病感受性・薬物感受性との関連

- 小澤 正吾(国立医薬品食品衛生研究所 薬理部)

● W1-7

<まとめ>

○ 山添 康 (東北大学大学院薬学研究科)

■ ワークショップ2. 6月30日(金) 13:00~16:00 (3階 301)

「毒性評価系のための遺伝子改変動物の活用」

オーガナイザー：井上 達 (国立医薬品食品衛生研究所)

遠山 千春 (国立環境研究所)

● W2-1

化学物質による毒性評価系としての遺伝子変異動物

○ 井上 達、遠山 千春 (国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所)

● W2-2

環境ストレスとメタロチオネイン

○ 遠山 千春 (国立環境研究所環境健康部)

● W2-3

Novel insights into the antioxidant action of metallothionein in the heart

○ Y. James Kang (University of Louisville School of Medicine)

● W2-4

ダイオキシンによるマウスの発生毒性発現のメカニズム

○ 山下 敬介 (広島大学医学部解剖学第一講座)

● W2-5

Disposition of TCDD in CYP1A2 knock-out mice

○ Janet J. Diliberto (Experimental Toxicology Division, NHEERL, US Environmental Protection Agency, USA.)

● W2-6

転写因子による異物代謝系の制御

○ 山本 雅之 (筑波大学 基礎医学系 先端学際領域研究センター)

● W2-7

Variety of receptor-transgenic animals for evaluation of bio-pharmaceuticals.

○ Joy A.Cavagnaro (Access BIO, USA)

■ ワークショップ3. 6月30日(金) 13:00~16:00 (3階 302)

「安全性評価における技術的な課題」

オーガナイザー：仮家 公夫 (神戸学院大学薬学部)

松澤 利明 (山之内製薬 (株))

● W3

安全性評価における技術的な課題 オルガナイザー序論

○ 仮家 公夫、松澤 利明* (神戸学院大学薬学部、山之内製薬 (株) 薬事部*)

● W3-1

医薬品の免疫毒性評価手順を検討するための共同研究について

○ 中村 和市 (日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会
免疫毒性ワーキンググループ (塩野義製薬 (株) 新薬研究所))

● W3-2

Immunotoxicology Considerations in Drug Development

○ Peter T.Thomas, PhD Director of Toxicology (Covance
Laboratories Inc., USA)

● W3-3

An overview of current techniques available for assessment of QT interval prolongation in regulatory pharmacology and toxicology.

○ Mrs Carol M Algate (Animal Technology Support and
Development, Huntigdon Life Sciences, UK)

● W3-4

薬物による QT 延長評価法：心筋单相性活動電位 (MAP) 法と微少電極による心筋細胞内活動電位測定 (APD) 法

○ 鈴木 潤、池田 博信、下里 貴、榎田 好造、左近上 博司、西森 司雄
(株) 環境バイリス研究所)

● W3-5

Light and phototoxicology: Status and Current Issues

○ P. Donald Forbes, Christopher P Sambuco, Douglas B Learn (The center for photobiology, Primedica-Argus Laboratories, USA)

● W3-6

性腺障害を介さない生殖毒性の発現機構

○ 長尾 哲二 ((財) 食品薬品安全センター薬野研究所 生殖生物学)

● W3-7

研究開発の意志決定に関わる安全性評価の問題点

○ 細江 透 (ディ・スリー研究所)

■ セミナー

■ セミナー1. 6月28日(水) 9:00~12:00 (3階 301,302)

「安全性薬理試験のあり方」

オーガナイザー：藤森 親之助 (医薬品機構治験指導部)

馬屋原 宏 (武田薬品工業(株))

● Se1-1

オーガナイザーによる序論

- 馬屋原 宏 (武田薬品工業(株) 創薬研究本部 研究推進部)

● Se1-2

ICH 安全性薬理試験ガイドライン(案)の現状

- 橋本 宗弘
(ファルマシア・アップジョン(株) 研究統括部 毒性薬理グループ)

● Se1-3

呼吸・循環系からみた安全性薬理試験 -特にQT延長に関して

- 橋本 敬太郎 (山梨医科大学薬理学教室)

● Se1-4

ヒトでの予測を踏まえた安全性薬理試験のあり方

- 柳田 知司
(¹⁾東京慈恵会医科大学薬理学第1講座、²⁾(株)イナリサーチ薬理毒性部門)

● Se1-5

臨床の立場からみた安全性薬理試験

- 東 純一 (大阪大学大学院薬学研究科)

● Se1-6

安全性薬理試験のあり方：オーガナイザーによるまとめ

- 藤森 親之助 (医薬品機構治験指導部)

■ セミナー2. 6月28日(水) 13:00~15:00 (3階 301,302)

「ICHガイドラインの果たした役割と問題点」

オーガナイザー：大野 泰雄（国立医薬品食品衛生研究所）

島田 弘康（第一製薬(株)）

● Se2-1

オーバービュー

○黒川 雄二（国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター）

● Se2-2

生殖発生毒性 ICH ガイドラインへの企業の取り組み

ー JPMA アンケート調査結果からの考察ー

○峯島 浩¹⁾、沼 敏章²⁾、西垣 敬二³⁾、遠藤 芳彦⁴⁾、小笠原 裕之⁵⁾、
奥田 恭之⁶⁾、平野 文也⁷⁾、三宅 幸雄⁸⁾、松澤 利明⁹⁾（日本製薬工業協会医
薬品評価委員会基礎研究部会生殖ワーキンググループ、¹⁾ノバルティスファーマ、
²⁾三井製薬工業、³⁾興和、⁴⁾ファルマシア・アップジョン、⁵⁾日本ワイスレダリー、
⁶⁾エーザイ、⁷⁾ヤンセン協和、⁸⁾塩野義製薬、⁹⁾山之内製薬）

● Se2-3

遺伝毒性試験ガイドラインに与えた影響

○祖父尼 俊雄（オリンパス光学工業(株)）

● Se2-4

がん原性試験における Short term test の役割

○三森 国敏（国立医薬品食品衛生研究所 病理部）

● Se2-5

ICH ガイドラインの果たした役割と問題点

5. TK, PK の安全性研究における役割

○大野 泰雄（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物研 薬理部）

● Se2-6

不純物ガイドラインにおける安全性確保の考え方

○島田 弘康（第一製薬(株) 安全性研究所）

● Se2-7

CTD が申請に与える影響ー申請資料のグローバル化ー

○河合 睦文
（日本イーライリリー(株) リリーリサーチラボラトリーズジャパン）

● Se2-8

医薬品開発における安全性研究の戦略 - バイオ医薬品を中心に -

○ 牧 栄二 (ヤンセン協和 (株) 研究開発本部)

■ セミナー3. 6月30日 (金) 9:00~12:00 (3階 303)
「毒性質問箱：トキシコロジストの抱える毒性に関するQ&A」

オーガナイザー：渡部 烈 (東京薬科大学薬学部)

松本 一彦 (日本たばこ産業 (株))

野村 護 (第一製薬 (株))

■ 一般講演

■ 毒性試験法

6月28日(水) 9:00~10:12 (3階 303)

座長: 金子 豊蔵 (国立医薬品食品衛生研究所)

堀井 郁夫 (日本ロシュ(株) 研究所前臨床化学研究部)

● O-1

血液凝固検査に用いる PT (プロトロン時間) 測定試薬の比較検討

- 田原 知徳、赤澤 康平、殊才 孝則
(大塚製薬(株) 徳島研究所 毒性研究部)

● O-2

Flow cytometry を用いたラット精巢毒性検査方法の検討

— Cyclophosphamide、2週間投与の影響 —

- 加藤 千明¹⁾、堀井 郁夫¹⁾、北嶋 聡²⁾、相賀 裕美子²⁾、井上 達²⁾ (1)日本ロシュ(株) 研究所 前臨床科学研究部、2)国立医薬品食品衛生研究所 毒性部)

● O-3

ビリルビン酸化分解物の酸化ストレスマーカーとしての有用性

- 小林 章男¹⁾、高橋 統一¹⁾、菅井 象一郎¹⁾、松本 一彦¹⁾、山口 登喜夫²⁾ (1)日本たばこ産業(株) 医薬総合研究所 安全性研究所、2)東京医科歯科大学 難治疾患研究所)

● O-4

雄ラット性成熟過程における Flow cytometry による精子生存性と数の検討

- 滝沢 節子、加藤 千明、猪又 晃、堀井 郁夫
(日本ロシュ(株) 研究所 前臨床科学研究部)

● O-5

乳蛋白プロモーターを利用した免疫寛容動物の作成

- 高橋 利一、上田 正次 ((株) ワイエスニューテクノロジー研究所)

● O-6

ラジオアイソトープを用いない種々の local lymph node assay 変法の検討

○山下 昌宏¹⁾、須田 朗子、田部井 光行、Hans-Werner Vohr、筒井 尚久、鈴木 律好、菊池 克明、望月 講輝、中村 和希

(日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会 免疫毒性ワーキンググループ (東レ¹⁾)

■ 一般毒性 1

6月28日 (水) 10:12~11:00 (3階 303)

座長：赤堀 文昭 (麻布大学獣医学部薬理学教室)

佐藤 秀蔵 (武田薬品 (株)創薬研究本部)

● O-7

薬物代謝酵素の性差に起因した雌ラットにおける毒性発現

○金子 公幸、内田 和美、小林 稔秀、三浦 浩蔵、角 将一、加藤 幾雄、尾上 正治 ((株)ヤクルト本社 中央研究所)

● O-8

一般毒性試験における臨床病理検査に関する調査

○深澤 洋史¹⁾、苗代 一郎、青木 康治、岩井 久和、阿瀬 善也、川原 潤一、木村 敬、青木 豊彦、橋本 正晴 (日本製薬工業協会 基礎研究部第二分科会 (ファイザー製薬 (株)¹⁾ファイザー・ヘルスケア・アカデミー)

● O-9

J-109388 (Indolocarbazole 系 Topo-I 阻害薬) のイヌ発熱メカニズムの検討

○宮崎 裕康、吉田 睦、佐々木 和彦、森山 智之、久野 博司、花見 正幸、松本 浩良、池本 文彦 (萬有製薬 (株) 開発研究所)

● O-10

NB-506 (Indolocarbazole 系 Topoisomerase-I 阻害薬) 投与後に惹起されるイヌ体温変動の検討

○吉田 睦、宮崎 裕康、佐々木 和彦、森山 智之、久野 博司、松本 浩良、池本 文彦 (萬有製薬 (株) 開発研究所)

■ 一般毒性2

6月28日(水) 11:00~11:48 (3階 303)

座長：岡崎 修三 ((株)ポゾリサーチセンター)

久野 博司 (萬有製薬(株)安全性研究部)

● O-11

毒性試験における初期全身性反応

I. 単回投与毒性試験に用いたビーグル犬についての調査

○ 渡辺 大、星谷 達、赤木 圭介、溝口 靖基、神谷 紀礼、水口 浩康、
 熊原 道代、戸谷 弘之、長島 吉和、岡庭 梓
 ((株)ポゾリサーチセンター 函南研究所)

● O-12

毒性試験における初期全身反応

II. イヌにおけるエンドトキシン投与及び外科的侵襲時の所見

○ 星谷 達、渡辺 大、松岡 哲也、堀口 浩資、三木 康宏、水口 浩康、
 石井 俊也、野村 典行、長島 吉和、岡庭 梓、
 ((株)ポゾリサーチセンター 函南研究所)

● O-13

カニクイザルにおける DXA を用いた経時的体脂肪率測定の評価及び体脂肪率に 対する制限給餌の効果

○ 鎌田 秀一、松山 隆史、角崎 英志、福岡 好一郎、宮島 宏彰
 ((株)新日本科学 安全性研究所)

● O-14

補骨子抽出物の精製毒性発現機序に関する研究

○ 高木 久宜¹⁾、三森 国敏²⁾、小野寺 博志¹⁾、安原 加濤雄¹⁾、田村 啓¹⁾、
 那須 昌弘²⁾、広瀬 雅雄¹⁾
 (¹⁾国立医薬品食品衛生研究所 病理部、²⁾(株)パナファーム・ラボラトリーズ)

■ 変異原性、癌原性、発癌性

6月28日(水) 9:00~10:12 (3階 304)

座長：津田 修治(岩手大学農学部獣医公衆衛生学教室)

務台 衛(三菱東京製薬(株)横浜総合研究所)

● O-15

特殊な鉛中毒事例から発見された鉛結合蛋白

○南 正康、勝又 聖夫、葉 恵娟(日本医科大学衛生学公衆衛生学教室)

● O-16

ヒトチトクローム P4501A2 とアセチル転移酵素を細胞内で発現する
umu 試験菌株を用いた癌原性芳香族アミンの検出

○小田 美光¹⁾、Pramod Aryal²⁾、寺下 隆夫³⁾、F. P. Guengerich³⁾、
島田 力¹⁾(¹⁾大阪府立公衆衛生研究所、²⁾近畿大学 農学部 食品微生物、
³⁾Vanderbilt Univ.)

● O-17

N-アルキルニトロソアミンの代謝的活性化におけるヒトチトクローム P450 の
役割

○藤田 健一、鎌滝哲也(北海道大学大学院薬学研究科代謝分析学分野)

● O-18

河川水から単離された 2-phenylbenzotriazole (PBTA) 誘導体の
ヒト N-アセチル転移酵素 2 (NAT2) による代謝的活性化

○山崎 義征¹⁾、藤田 健一¹⁾、若林 敬二²⁾、鎌滝 哲也¹⁾(¹⁾北海道大学大学
院薬学研究科代謝分析学分野、²⁾国立がんセンター研究所がん予防研究部)

● O-19

マウス始原生殖細胞は変異原物質の重要な標的である

○澁谷 徹((財)食品薬品安全センター秦野研究所)

● O-20

マウスの多臓器における遺伝毒性と腫瘍類癌原性の相関性

○佐々木 有¹⁾、關橋 薫²⁾、前田 貴宣³⁾、河村 公太郎³⁾、一花 次夫³⁾、
津田 修治³⁾(¹⁾八戸工業高等専門学校、²⁾(株)化合物安全研究所、³⁾岩手大学獣
医学科)

■ 免疫毒性

6月28日(水) 10:12~11:24 (3階 304)

座長：上野 光一 (千葉大学大学院薬学研究科薬物治療学)

木村 努 (三共(株)安全性研究所)

● O-21

マウス脾臓リンパ節測定法の薬剤免疫毒性評価への応用

○木村 努¹⁾、永見 和之、田中 一三、入江 弘之、渡辺 潔、横田 忠、須田 朗子、中村 和希 (日本製薬工業協会 医薬品評価委員会基礎研究部第二分科会免疫毒性ワーキンググループ、¹⁾三共(株)安全性研究所)

● O-22

デキサメタゾン、シクロスポリンによる免疫毒性試験法の検討

○井上 守、望月 講輝、吉田 純一 (科研製薬(株)安全性研究所)

● O-23

イヌにおける薬物誘発性アレルギー反応に関する検討

○川島 康永、永見 和之、久野 博司、松本 浩良
(萬有製薬(株)開発研究所)

● O-24

リポポリサッカライド (LPS) によるヘムオキシゲナーゼ-1 遺伝子発現におけるサイトカインの役割

○小黒 多希子¹⁾、高橋 祐子¹⁾、塩田 清二²⁾、宝来 玲子³⁾、浅野 雅秀³⁾、岩倉 洋一郎³⁾、吉田 武美¹⁾ (¹⁾昭和大学 薬学部 毒物学、²⁾昭和大学 医学部 第一解剖学、³⁾東京大学 医科学研究所ヒト疾患モデル研究センター)

● O-25

鼻粘膜アジュバントとしての組換えコレラ毒素 Bサブユニット (γ CTB) のアジュバント活性と安全性

○後藤 紀久¹⁾、前山 順一¹⁾、井坂 雅徳²⁾、谷口 暢、小塚 諭²⁾、安田 陽子²⁾、橋久保 邦夫²⁾
(¹⁾国立感染症研究所 安全性研究部、²⁾名古屋市立大学 医学部)

● O-26

脾臓と胸腺における 7, 12-dimethylbenz [a] anthracene の免疫毒性発現機構の差異

○宮田 昌明¹⁾、高橋 公一¹⁾、古川 正幸¹⁾、Frank J. Gonzalez²⁾、山添 康¹⁾ (¹⁾東北大学大学院薬科学研究科、²⁾米国国立衛生研究所)

■ 腎毒性

6月28日(水) 13:00~14:00 (3階 303)

座長：玄番 宗一(大阪薬科大学薬理学教室)

三浦 克之(大阪市立大学医学部薬理学教室)

● O-27

5/6 腎摘ラットにおける血圧日内変動の消失

○ 堀場 直、熊野 英一、新倉 博又、井上 誠(中外製薬(株)安全性研究所)

● O-28

雄ラットに見られる腎臓硝子滴変化の免疫組織化学的解析とその評価への適用

○ 緒方 英博¹⁾、浜村 政夫¹⁾、一鬼 勉¹⁾、和泉 宏幸²⁾、太田 浩¹⁾、
内田 秀臣¹⁾、鎌田 栄一³⁾、長谷川 隆一³⁾(¹⁾パナファーム ラボラトリーズ
安全性研究部、²⁾国立医薬品食品衛生研究所 総合評価研究室)

● O-29

シスプラチンによる酸化腎細胞障害への細胞内カルシウムの関与

○ 河合 悦子、中尾 貴史、玄番 宗一(大阪薬科大学 薬理学)

● O-30

シクロスポリンA 腎障害時に見られる低マグネシウム血症の改善に伴う腎障害の軽減効果

○ 三浦 克之¹⁾、浅井 利大¹⁾、山中 伸弥²⁾、金 勝慶¹⁾、中谷 達也³⁾、
岩尾 洋¹⁾(¹⁾大阪市立大学医学部 薬理学、²⁾大阪市立大学医学部 泌尿器科、奈良先端科学技術大学院大学遺伝子教育センター)

● O-31

塩化水銀投与 Brown Norway ラットの腎間質病変における MMP とその制御因子の動態

○ 鈴木 和彦、中山 裕之、土井 邦雄
(東京大学大学院農学生命科学研究科獣医病理学教室)

■ 肝毒性

6月28日(水) 14:00~14:48 (3階 303)

座長：小澤 正吾(国立医薬品食品衛生研究所)

出川 雅邦(静岡県立大学薬学部薬剤学教室)

● O-32

2, 2', 4', 5-Tetrabromobiphenyl のメチルスルホン代謝物の強力な
CYP2B1/2誘導作用

○加藤 善久¹⁾、原口 浩一²⁾、湯本 信也¹⁾、永野 泰弘¹⁾、山崎 友明¹⁾、
増田 義人²⁾、木村 良平¹⁾

(¹⁾静岡県立大学 薬学部 薬剤学、²⁾第一薬科大学 物理分析学)

● O-33

2, 2', 4', 5, 5'-Pentachlorobiphenyl の代謝と薬物代謝酵素誘導能：
ラット、マウス間での種差

○新村 康彦¹⁾、加藤 善久¹⁾、原口 浩一²⁾、根本 清光³⁾、今井 公江⁴⁾、
相本 太刀夫⁴⁾、増田 義人²⁾、出川 雅邦²⁾、木村 良平¹⁾

(¹⁾静岡県立大学 薬学部 薬剤学、²⁾第一薬科大学 物理分析学、³⁾静岡県立大学 薬学部 衛生化学、⁴⁾摂南大学 薬学部 薬物動態学)

● O-34

Tamoxifen 投与によるラット肝腫瘍誘発過程における癌原遺伝子発現の
RT-PCR 法による解析

○笠原 利彦、橋場 雅道、原田 剛、浜田 悦昌、尾畑 賢臣
(持田製薬(株) 総合研究所安全性研究室)

● O-35

医薬品開発における手術材料の有用性と信頼性

○鈴木 聡¹⁾、新倉 靖子¹⁾、倉田 知光²⁾、伊藤 洋二³⁾、草野 満夫⁴⁾、
佐藤 哲男¹⁾、大野 泰雄⁴⁾、安原 一²⁾

(¹⁾HAB 豊長類機能研究所、²⁾昭和大学 医学部 第2薬理学教室、³⁾昭和大学 医学部 第2外科学教室、⁴⁾国立医薬品食品衛生研究所)

■ 循環器（心、血管）毒性

6月28日（水）14:48～15:48（3階 303）

座長：尾崎 博（東京大学大学院農学生命科学研究科）

鬼頭 剛（(株)新日本科学）

● O-36

ラットにおける血中 BNP 測定による心臓毒性評価の検討

○大野 理絵、宮田 裕人、白根 里加、潮田 勇、浅沼 富美子、
八木 健一、木村 正明、(大正製薬(株) 開発研究所 安全性研究室)

● O-37

抗癌剤 doxorubicin の長期処理による血管平滑筋抑制作用

○尾崎 博、村田 幸久、山脇 英之、堀 正敏、佐藤 晃一、唐木 英明
(東京大学大学院 農学生命科学研究科獣医薬理学教室)

● O-38

ラットにおける体液量減少の血小板数に及ぼす影響

○三井 雄史、原田 剛、浜田 悦昌、尾畑 賢臣
(持田製薬(株) 総合研究所 安全性研究室)

● O-39

不整脈作用の前臨床評価の戦略

○古川 武史、軸藺 竜也、永山 伸一、浜田 大治、亀之園 剛、
永田 良一、鬼頭 剛（(株)新日本科学 安全性事業部 安全性1部）

● O-40

Swine as a Model for Anti-proliferative Therapies to Treat Restenosis

○Richard Van Bibber、永田 良一、Steven Gilbert、鬼頭 剛
(SNBL USA, Ltd.)

■ 神経毒性

6月28日(水) 13:00~13:48 (3階 304)

座長：江頭 亨 (大分医科大学薬理学教室)

小林 晴男 (岩手大学農学部家畜薬理学教室)

● O-41

神経毒性を有する重金属化合物の脳組織にホスホリパーゼC活性に及ぼす影響

○小林 晴男、中川 博文、掘越 喜美子、鈴木 忠彦

(岩手大学 農学部 家畜薬理学教室)

● O-42

Phosphodiesterase 阻害剤によるラット網膜変性症

○石田 尚夫、義澤 克彦、高橋 有里、藤井 恒雄、大石 裕司、

橋本 正晴、小原 要、(藤沢薬品工業(株)安全性研究所)

● O-43

環境化学物質の脳神経系への影響：スチレンはサル脳モノアミン酸化酵素活性を阻害する

○江頭 亨、高山 房子、山中 康光 (大分医科大学 薬理学教室)

● O-44

Use of a Dynamic In Vitro Model to study drug Passage Across the Blood-Brain Barrier

○Sandra Munro、永田 良一、Steven Gilbert、鬼頭 剛

(SNBL USA, Ltd.)

■ 内分泌攪乱物質 1

6月28日(水) 13:48~14:48 (3階 304)

座長：青山 博昭 ((財)残留農薬研究所)

米元 純三 (環境庁国立環境研究所)

● O-45

トリブチルスズのラット精子形成に対する影響のフローサイトメトリーによる解析

○飯田 茂、阿部 毅、亀岡 美幸、江村 美和、納屋 聖人、原 卓司

(協和発酵工業(株)安全性研究所)

● O-46

内分泌攪乱化学物質のヒト各種スルホトランスフェラーゼ分子種による硫酸抱合

- 西山 貴仁、高橋 愛愁、大久保 泰成、小倉 健一郎、渡辺 烈
(東京薬科大学 薬学部 第二衛生化学教室)

● O-47

血清 α 2u-globulin level の内分泌攪乱物質スクリーニング法への応用

- 武吉 正博、佐脇 正邦、野田 修志、山崎 寛治、高月 峰夫
(財)化学物質評価研究機構 安全性評価技術研究所)

● O-48

フルタマイドの胎児期・新生児期曝露によるF1雄ラットのアンドロゲン依存性器官への内分泌攪乱作用

- 宮田 かおり¹⁾、藪下 晴津子¹⁾、須方 督夫¹⁾、佐野 真士²⁾、吉野 裕子²⁾、中西 巧²⁾、奥野 泰由¹⁾
(¹⁾住友化学工業(株)生物環境科学研究所、²⁾大塚会医科学研究所)

● O-49

ヒト肝細胞 HepG2 を用いたリポーター遺伝子発現系による有機リン系殺虫剤の抗アンドロジェン活性とその構造相関

- 田村 廣人¹⁾、吉川 博道²⁾、Richard, A.M.³⁾、Gray E. L.³⁾、Maness, S.C.⁴⁾、Reishmann, K.P.⁴⁾、Gaido, K. W.⁴⁾ (¹⁾名城大学農学部応用生物化学科、²⁾九州共立大学工学部環境化学科、³⁾U.S.EPA、⁴⁾Chemical Industry Institute of Toxicology(CIIT))

■ 内分泌攪乱物質2

6月28日(水) 14:48~15:36 (3階 304)

座長: 奥野 泰由 (住友化学工業(株))

武吉 正博 ((財)科学物質評価研究機構日田事業所)

● O-50

卵巣摘出ラットを用いた子宮肥大試験: 投与経路の違いによる影響について

- 於勢 佳子、山田 智也、奥野 泰由、紙田 裕介、関 高樹
(住友化学工業(株)生物環境科学研究所)

● O-51

メトキシクロールの卵巣摘出ラットにおける子宮肥大試験

○ 青山 博昭、小坂 忠司、上野 明紀、武田 眞記夫、中島 信明、寺本 昭二 (財) 残留農業研究所)

● O-52

胎児期及び授乳期の低用量 TCDD 曝露が甲状腺機能に及ぼす影響

○ 米元 純三^{1,4)}、西村 典子^{1,4)}、佐藤 巳喜夫³⁾、宮原 裕一^{1,4)}、大村 昌子⁴⁾、青木 康展^{1,4)}、遠山 千春^{2,4)} (国立環境研究所¹⁾ 環境健康部、国立環境研究所、²⁾ 地域環境研究グループ、³⁾ 筑波大学 医学部、⁴⁾ CREST, JST)

● O-53

2, 3, 7, 8-テトラクロロ-パラ-ジベンソダイオキシン (TCDD) の毒性発現におけるエストロゲン受容体の関与

○ 曾根 秀子^{1,2)}、Shubhashish Sarkar¹⁾、石塚 真由美^{2,3)}、川野 道宏¹⁾、遠山 千春^{2,3)}、米元 純三^{1,2)} (国立環境研究所¹⁾ 地域環境研究グループ、²⁾ 環境健康部、³⁾ 日本科学技術事業団・CREST)

■ 細胞毒性

6月28日(水) 15:36~16:36 (3階 304)

座長：井上 智彰 (日本ロシュ (株) 日本ロシュ研究所)

沼澤 聡 (昭和大学薬学毒物学教室)

● O-54

細胞磁界測定法による塩化砒素の肺胞マクロファージの障害性評価

○ 岡田 充史¹⁾、井上 葉子¹⁾、小松 裕美¹⁾、杉浦 由美子¹⁾、相澤 好治¹⁾、岡安 勲²⁾、沼田 賢子³⁾、小谷 誠³⁾
(¹⁾ 北里大学医学部衛生学 公衆衛生学教室、²⁾ 北里大学医学部病理学教室、³⁾ 東京電機大学工学部生物電子システム研究室)

● O-55

Trx/ADF 遺伝子改変マウス由来の造血前駆細胞における酸化ストレス物質の造血毒性発現様式

○ 平林 容子、児玉 幸夫、梅村 隆志、川崎 靖、金子 富蔵、菅野 純、黒川 雄二*、井上 達 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター毒性部、*国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター)

● O-56

酸化ストレスによるヘムオキシゲナーゼ誘導における aPKC の関与

○ 沼澤 聡、坂田 文、石川 牧恵、吉田 武美 (昭和大学 薬学部 毒物学)

● O-57

In Vitro ラット脳スフェロイド (SP) 長期培養系における

6-Aminonicotinamide (6-ANA) の影響

○ 井上 智彰、堀井 郁夫 (日本ロシュ (株) 研究所 前臨床科学研究部)

● O-58

中性アミノ酸トランスポーターのメチル水銀輸送活性の検討

○ 金 徒慶、串 碩鎬、Arthit Chairoungdua、稲富 淳、松尾 洋孝、
金井 好克、遠藤 仁 (杏林大学医学部薬理学教室)

■ ポスター 6月29日 (木)

展示 9:00～16:40 (3階 ラウンジ)
質疑応答 11:00～12:00 (3階 ラウンジ)

■ 毒性試験法

● P-1

サルの自動採血法による血中活性物質の日内変動

○阿久根 淳、浜田 大治、亀之園 剛、永田 良一、鬼頭 剛
(株)新日本科学 安全性事業部 安全性1部)

● P-2

イヌを用いた毒性検討への肝生検の導入 (2)

—病理組織学的検討—

○小野沢 緑¹⁾、仲野 善久¹⁾、白石 明¹⁾、酒井 東日¹⁾、庄司 陽子¹⁾、
仲由 武貴¹⁾、清水 憲次²⁾ (1)明治製菓(株)、2) (株)富士バイオメディックス)

● P-3

四塩化炭素による急性肝障害時のイヌ血清 SDH、GLDH、5'-ND、総胆汁酸の経時的変動

○小田部 耕二、江原 裕子、長谷川 妙子、小泉 妙子、田中 直美、
森 敏男*、野口 規子、千葉 修一、渡部 一人、新倉 博文、井上 誠
(中外製薬(株)安全性研究所、*(株)CSKリサーチパーク)

● P-4

テトラソリウム塩法、SQA法およびコンピューターを用いた精子自動解析法を併用した2-プロモプロバンのラット精巣毒性試験の検討

○大谷 勝己、宮川 宗之 (労働省産業医学総合研究所)

● P-5

イヌ副腎皮質細胞培養による In vitro グルココルチコイド産生系を用いた副腎皮質毒性物質の評価

○森下 克美、奥村 裕、伊藤 典男、高橋 伸夫
(大塚製薬(株)徳島研究所 毒性研究部)

● P-6

全自動血液凝固測定装置 CA-6000 を用いた血液凝固因子活性測定
—血液凝固因子活性の動物種差と血漿試料の保存安定性—

○ 木村 由美子、京川 吉正、原内 敏夫、大野 浩司
(塩野義製薬 新薬研究所)

● P-7

イヌを用いた毒性・薬物動態試験への肝生検の導入

○ 清水 茂一¹⁾、加藤 隆之²⁾、清水 憲次³⁾、黒沢 亨⁴⁾ (1) (株) 富士バイオ
メディックス 小淵沢総合研究所、2) 明治製薬 (株) 安全性研究所)

● P-8

市販緑内障治療薬のカニクイザルにおける眼圧下降作用

—麻酔下と無麻酔下の比較—

○ 澤田 隆博、坂本 憲吾、清水 淳、広瀬 祐治、武藤 紀生
(株) イナリサーチ)

● P-9

ウサギ血栓性脳硬塞モデルを用いた ME3277 による脳出血の検討

○ 函子田 建二、森本 眞知子、山本 健一、片羽 一嘉、黒沢 亨、
仲由 武寛 (明治製薬 (株) 薬品研究所)

● P-10

ラットにおける血中コレステロール分画法の比較

—超遠心法、電気泳動法および直接比色法—

○ 奈良岡 準、田畑 肇、久保 道江、石川 敦子、堺 俊治
(山之内製薬 (株) 安全性研究所)

■ 肝毒性

● P-11

肝細胞サンドイッチ培養法の毒性評価への応用

○ 鳥塚 尚樹、佐藤 玄、柿本 基治、甲斐 純子、築館 一男、澤田 繁樹、佐神 文郎 (エーザイ (株) 薬理安全性研究所)

● P-12

Tamoxifen 投与によるラット肝薬物代謝酵素誘導測定への RT-PCR 法への応用

○ 橋場 雅道、笠原 利彦、原田 剛、落合 敏秋、尾畑 賢臣
(持田製薬 (株) 総合研究所安全性研究室)

● P-13

C57BL/6 マウスを用いた concanavalin A 肝炎モデル

○ 庄司 陽子、小野沢 緑、仲野 善久、白石 明、佐藤 雅之、酒井 東日、仲由 武寛、(明治製薬 (株) 薬品総合研究所 安全性研究所)

● P-14

LEC ラットの肝及び腎障害に対する抗酸化物質の影響

○ 中村 英明、西川 秋佳、古川 文夫、宮内 慎、孫 和永、広瀬 雅雄
(国立医薬品食品衛生研究所病理部)

● P-15

ベンゾチアゾール誘導体によるラット肝毒性発現機序の解明

2) Ames 試験を指標とした代謝活性化経路の推定

○ 佐藤 玄¹⁾、朝倉 省二²⁾、羽倉 昌志¹⁾、小林 直樹³⁾、岡本 康⁴⁾、築館 一男¹⁾ (エーザイ (株) ¹⁾薬理安全性研究所、²⁾ケミストリーユニット4)

● P-16

薬草 *Thonningia sanguine* のラット肝薬物代謝酵素阻害作用

○ Maxwell Afari Gyamfi、外間 惟夫^{*}、安仁屋 洋子
(琉球大学 医学部 保健学科生体機能学、^{*}琉球大学付属病院薬剤部)

● P-17

四塩化炭素投与によるアクロレイン修飾蛋白の経時的変化と N-acetylcysteine の影響

○ 宮内 慎¹⁾、西川 秋佳¹⁾、古川 文夫¹⁾、中村 英明¹⁾、孫 和永¹⁾、内田 浩二²⁾、広瀬 雅雄¹⁾ (¹⁾国立医薬品食品衛生研究所 病理部、²⁾名古屋大学 生命農学研究科 食品機能化学)

■ 腎毒性

● P-18

KK-Aマウスにおける糖尿病性腎症の発症時期に関する検討

○ 横田 由美、勝田 修、海上 智 (三菱化学安全科学研究所 鹿島研究所)

● P-19

イブプロフェン配合剤により惹起されたラット腎障害における
アセトアミノフェンならびにカフェインの影響

○ 若松 昭秀、大林 繁夫、清水 賢治
(グレラン製薬(株) 研究開発本部 開発研究所)

● P-20

尿細管腔内に結晶状物質を伴う腎障害の発現機序

○ 吉田 千春、波谷 幸代、尾崎 秀次、柴崎 義明、早坂 弘康、
庄司 陽子、黒沢 亨、仲由武實 (明治製薬(株) 薬品総合研究所)

■ 生殖・発生・胎仔(児)毒性

● P-21

多選択性有機アニオントランスポータを介した Methyl mercury-cysteine
包含体の輸送

○ 車 碩鎬、関根 孝司、金 徒慶、武田 理夫、金井 好克、遠藤 仁
(杏林大学医学部薬理学教室)

● P-22

マウスにおける塩化カドミウムの催奇形作用に対するグルタチオン前駆物質、
N-アセチルシステインの防御効果

○ 納屋 聖人¹⁾、飯田 茂²⁾、原 卓司¹⁾、安田 峯生²⁾
(¹⁾協和発酵工業(株) 安全性研究所、²⁾広島大学 医学部 第一解剖学教室)

● P-23

マウスを用いた繁殖毒性試験における一腹仔数の行動発達に及ぼす影響

○ 田中 豊人 (東京都立衛生研究所 毒性部 薬理研究科)

● P-24

精巣毒性発現におけるテストステロン関与の評価

○ 下村 和裕、島田 信、藤川 香津子、萩原 美代子、原田 滋雄、古濱 和久 (第一製薬(株) 安全性研究所)

● P-25

Continuous Intravenous Infusion of Rats for Fertility and Early Embryonic Development Studies - Paternal and Maternal Data

○ Keith Robinson, Cedric Gordon, Lorri Pinsonneault
(ClinTrials BioResearch Ltd.)

● P-26

イヌ精子検査法の確立に関する検討

○ 栗原 明義、高木 広憲、井上 忠広、中村 勇、木村 正明
(大正製薬(株) 開発研究所)

● P-27

マーモセットにおける生殖発生毒性試験法確立のための尿中プロゲステロン代謝物測定法の検討

○ 真鍋 ひろ子、Derek Carnie、尾根田 暁、伊原 敏夫、永田 良一
(株) 新日本科学)

● P-28

BrdU を胎児期に曝露した雄ラットの行動薬理学的検討

○ 桑形 麻樹子¹⁾、松本 亜紀¹⁾、長尾 哲二¹⁾、赤堀 文昭²⁾、小野 宏¹⁾
(¹⁾(財) 食品薬品安全センター 薬野研究所、²⁾麻布大学 生物科学総合研究所/獣医学部 薬理)

● P-29

フルオロ酢酸による精巣毒性とアポトーシスの関連性

○ 篠田 和俊¹⁾、三森 国敏²⁾、畠山 智香子³⁾、上原 正人³⁾
(¹⁾(財) 化学物質評価研究機構 日田事業所、²⁾国立医薬品食品衛生研究所 病理部、³⁾鳥取大学 家畜解剖)

● P-30

内分泌かく乱化学物質ビスフェノール A のラット培養胎児におよぼす影響

○ 横山 篤¹⁾、秋田 正治¹⁾、清水 茂一²⁾、野崎 善弘²⁾、志熊 廣夫³⁾、黒田 行昭³⁾ (¹⁾鎌倉女子大学 家政学部、²⁾(株) 富士バイオメディックス、³⁾国立遺伝学研究所)

● P-31

雄ラットの生殖機能に対する 1, 2-dichloropropane の影響

- 関口 総一郎、須田 恵、雅麗、川井 さゆり、本間 健資（労働省産業医学総合研究所）

● P-32

ラットの妊娠初期に投与した dibutyltin dichloride の胚致死作用

- 江馬 眞、原園 景（国立医薬品食品衛生研究所 大阪支所）

■ 変異原性

● P-33

ラット多臓器の遺伝毒性検出におけるコメットアッセイの有用性

- 關橋 薫¹⁾、前田 貴宣²⁾、河村 公太郎³⁾、一花 次夫³⁾、佐々木 有⁴⁾、津田 修治⁴⁾
(¹⁾(株)化合物安全性研究所、²⁾八戸工業高等専門学校、³⁾岩手大学獣医学科)

● P-34

CHL 細胞を用いた染色体異常試験及び小核試験における培養温度の影響

- 朝波 省吾、下野 和之、金田 信也（(株)大塚製薬工場 鳴門研究所）

■ 癌原性・発癌性

● P-35

クロロホルムの経口暴露と吸入暴露を組み合わせた投与（複数媒体投与）によるラット肝臓の酵素活性

- 笠井 辰也、武 信、竹内 哲也、西沢 共司、山本 静護、松島 泰次郎（中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター）

● P-36

クロロホルムの F344 ラットを用いて経口暴露と吸入暴露を組み合わせた投与による長期毒性

- 加納 浩和、松本 道治、山崎 一法、鈴木 正明、野口 孝義、長野 嘉介、山本 静護、松島 泰次郎（中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター）

● P-37

1, 4-ジオキサンの F344 ラットを用いて経口暴露と吸入暴露を組み合わせた投与による長期毒性

○山本 静護、大澤 護、西沢 共司、齋藤 新、笠井 辰也、野口 孝義、
長野 嘉介、松島 泰次郎

(中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター)

● P-38

p53 (+/-) C57BL/6 および p53 (+/-) CBA マウスにおける phenolphthalein の発がん感受性

○小野寺 博志、三森 国敏、高木 久宜、安原 加壽雄、田村 啓、
広瀬 雅雄、玉置 憲一¹⁾、野村 達次²⁾

(国立医薬品食品衛生研究所 病理部、¹⁾実験動物中央研究所)

● P-39

rash2 マウスにおける t-Butylhydroquinone の単独投与ないし亜硝酸との併用投与による前胃粘膜への影響

○安原 加壽雄、三森 国敏、梶谷 高敏、小野寺 博志、高木 久宜、
田村 啓、広瀬 雅雄 (国立医薬品食品衛生研究所 病理部)

■ 循環器 (心、血管) 毒性

● P-40

イヌの単相性活動電位 (MAP) 測定による安全性薬理学的評価法

○池田 博信、福田 好造、堤 宏禎、丹治 景子、左近上 博司、
西森 司雄、鈴木 潤 ((株) 環境バイリス研究所)

● P-41

ガラス管微少電極による心筋細胞内活動電位測定 (APD) 法を用いた安全性薬理学的評価法

○下里 貴¹⁾、六角 香¹⁾、西森 司雄¹⁾、鈴木 潤¹⁾、百瀬 弥寿徳²⁾
(¹⁾(株) 環境バイリス研究所、²⁾東邦大学薬学部)

● P-42

摘出心筋標本による薬物のQT延長作用評価の問題点：Terfenadine に関する検討

○田中 光、重信 弘毅 (東邦大学薬学部薬物学)

■ 血液毒性

● P-43

Role of corticosterone in ethyl carbamate-induced immunosuppression in female BALB/c mice

○ Shin-Woo Cha, Mun-Han Lee, Hyoung-Chin Kim, Hee-Kyoung Gu, Kap-Ho Kim, Ju-Hyun Bae and Tae-Cheon Jeong
(Toxicology Research Center, Korea Research Institute of Chemical Technology and College of Veterinary Medicine, Seoul Natl Univ, Korea)

● P-44

免疫毒性試験における血清 IgM 及び IgG 濃度測定の意味に関する検討

○ 久田 茂、永嶋 雅子、柴田 誠司、谷藤 久人、森本 秀樹、飯塚 和弘、増田 修治、飯田 祝子、臼居 敏仁*
(帝国臓器製薬(株)安全性研究部、*実験動物中央研究所)

● P-45

医用材料の安全性評価のための感作性試験における試験条件の比較検討

○ 金澤 由基子¹⁾、松田 洋¹⁾、松岡 千明¹⁾、五十嵐 良明²⁾、鹿庭 正昭²⁾、小島 幸一¹⁾、田中 麗穂¹⁾
(¹⁾(財)食品薬品安全センター薬野研究所、²⁾国立医薬品食品衛生研究所)

● P-46

Cyclophosphamide を5週間投与した CB6F1-Tg rasH2 マウス及び同種非遺伝子導入マウスにおける免疫学的パラメーターの変化を指標とした毒性発現の差に関する検討

○ 柴田 誠司、谷藤 久人、久田 茂、永嶋 雅子、森本 秀樹、飯塚 和弘、増田 修治、飯田 祝子、臼井 敏仁*
(帝国臓器製薬(株)安全性研究部、*実験動物中央研究所)

● P-47

ホルムアルデヒドの吸入暴露によるマウスの化学物質に対するアレルギー反応性の増強

○五十嵐 良明¹⁾、鎌田 栄一²⁾、鹿庭 正昭¹⁾、中村 晃忠¹⁾ (国立薬品食品衛生研究所¹⁾療品部、国立薬品食品衛生研究所²⁾総合安全評価研究室)

● P-48

Contact Dermatitis in BALB/c mice induced by Picryl Chloride

○Ji-Youn Jung, Kwang-IlJung、中山 裕之、土井 邦雄
(東京大学大学院農学部生命科学研究科獣医病理学教室)

● P-49

Nivalenol-Induced Apoptosis in Lymphoid Organs of Mice

○Amnat Poapolathep, Wijit kiatipattanasakul、石上 紀明、中山 裕之、土井 邦雄
(東京大学大学院農学部生命科学研究科獣医病理学教室)

■ 免疫毒性・アレルギー

● P-50

アニリンのラット運動量に及ぼす影響

○山下 弘太郎、石井 宏幸、豊田 直人、岡崎 欣正、高橋 要、土谷 稔
(株)三菱化学 安全科学研究所)

● P-51

職場における有害化学物質が作業者の嗅覚機能に及ぼす影響

○錦谷 まりこ¹⁾、荒記 俊一¹⁾、横山 和仁¹⁾、佐藤 元²⁾、河原 克雅³⁾
(¹⁾東京大学医学部公衆衛生学、²⁾北里大学医学部生理学)

● P-52

Trimethyltin を投与したラットの脳内グリア細胞線維性酸性蛋白 (GFAP) の発現に関する画像解析装置を用いた定量的評価方法の検討

○石井 宏幸、岡崎 欣正、山下 弘太郎、豊田 直人、高橋 要、河野 友紀子、友成 由紀、土谷 稔 ((株)三菱化学 安全科学研究所)

● P-53

トルエンの神経毒性評価におけるアセチルコリン受容体の変化

- 本間 健資、津賀 浩史、須田 恵
(労働省産業医学総合研究所 健康障害予防研究所)

● P-54

Vitamin A aldehyde (retinal) の出生前投与によるラット出生児の行動・機能に及ぼす影響

- 木原 隆英、谷村 孝*
(近畿大学医学部第一解剖学教室、*近畿大学ライフサイエンス研究所)

● P-55

抗精神病薬ハロペリドールによる神経毒性発現における酸化ストレス関与の可能性

- 古木 希、糟谷 史代、五十嵐 一雄 (神戸学院大学薬学部毒性学研究室)

■ 神経毒性

● P-56

ラットにおける脂肪乳剤粒子径の血中コレステロールとリン脂質に及ぼす影響

- 梅岡 健一、藤本 貴司、岸本 早苗、川内 佳之、越谷 修、澤本 修、栗栖 和信、岸本 恒次、中島 芳文、平岡 功
(株) 大塚製薬工場 鳴門研究所)

● P-57

クロロプロファムのラットおよびマウスの造血系に及ぼす影響

- 藤谷 知子、多田 幸恵、米山 允子 (東京都立衛生研究所 毒性部)

● P-58

一般毒性試験における尿検査に関する調査

- 川原 潤一¹⁾、木村 敬、桑原 良弘、和田 直人、青木 康治、泉 政明、信方 英文、花岡 裕吉、川内 佳之、畠山 茂樹、苗代 一部、深澤 洋史、青木 豊彦、橋本 正晴 (日本製薬工業協会 基礎研究部会第二分科会、(キリンビール (株) 医薬開発研究所¹⁾)

● P-59

一般毒性試験における血液化学的検査に関する調査

○ 岩井 久和¹⁾、阿瀬 善也、米良 幸典、中野 一行、木村 敬、
小林 勇二郎、和知 正幸、林 万律子、守田 伸子、苗代 一郎、
深澤 洋史、青木 豊彦、橋本 正晴（日本製薬工業協会 基礎研究部会第二分
科会（¹⁾株）三和化学研究所 総合研究所 安全性研究グループ）

● P-60

一般毒性試験における血液学的検査に関する調査

○ 青木 康治¹⁾、百瀬 泰紀、石塚 修司、阿瀬 善也、益本 古広、
山本 光雄、川原 潤一、岩井 久和、竹下 尚、苗代 一郎、深澤 洋史、
青木 豊彦、橋本 正晴（日本製薬工業協会 基礎研究部会第二分科会
（¹⁾北陸製薬（株）研究開発本部）

● P-61

Crj : CD (SD) IGS と Sic : SD ラットの一般毒性パラメータの比較

○ 辻村 裕美子、倉田 昌明、飯高 健、高橋 守、下谷 真智子、
加藤 まり子、古田 千香子、白井 紀充、佐藤 靖
（ファイザー製薬（株）安全性研究統括部）

● P-62

Chlormadinone acetate (CMA) の自然発症前立腺肥大 (BPH)

イヌの前立腺、精巣及び下垂体に対する作用の免疫病理組織学的検討

○ 池田 理恵、村越 正典、田川 正志、中山 隆治、五反田 浩太郎、
三枝 衛、本間 誠次郎（帝国機器製薬（株）安全性研究部、薬理研究部）

● P-63

骨芽細胞様細胞 MC3T3-E1 におけるメタロチオネイン遺伝子の発現について

○ 田村 幸彦、大谷 啓一（東京医科歯科大学 歯学部 歯科薬理学教室）

● P-64

血小板減少回復剤 FR115092 誘発胸水貯留 (I)

○ 宇波 明、寺井 孝雄、義澤 克彦、三枝 雅、藤本 芳勝、宮安 喜久男、
橋本 正晴、小原 要（藤沢薬品工業（株）安全性研究所）

● P-65

血小板減少回復剤 FR115092 誘発胸水貯留 (II)

○ 宇波 明、寺井 孝雄、義澤 克彦、宮安 喜久男、橋本 正晴、小原 要
（藤沢薬品工業（株）安全性研究所）

● P-66

タモキシフェン反復投与のラット子宮及び卵巣に及ぼす影響

○ 佐藤 敦子、久田 茂、谷藤 久人、永嶋 雅子、飯塚 和弘、増田 修治、三村 雄一、中山 隆治 (帝国臓器製薬 (株) 安全性研究部)

● P-67

DHPN 単回投与ラットにおける甲状腺及び精巣毒性の初期変化

○ 田村 啓、三森 国敏、安原 加壽雄、小野寺 博志、高木 久宜、那須 昌弘¹⁾、広瀬 雅雄
(国立医薬品食品衛生研究所 病理部、¹⁾(株) パナファーム ラボラトリーズ)

■ データ解析

● P-68

Hershberger Assay における副生殖器重量測定法の検討：ホルマリン固定後測定による試験制度の向上

○ 角南 整、山田 智也、国松 武史、奥野 泰由、紙田 祐介、関 高樹
(住友化学工業 (株) 生物環境科学研究所)

● P-69

大腸菌にて発現可能な融合ヒトアンドロジェンレセプターの設計とそれを用いた内分泌攪乱物質としての化学物質の評価

○ 松井 一裕、曾家 義博、西井 重明、石橋 卓也、川村 良久
(東洋紡績 (株) 敦賀バイオ研究所)

● P-70

ヒト前立腺ガン由来細胞株 LNCaP 細胞を用いた *in vitro* 抗アンドロジェン活性評価系の検討

○ 成見 香瑞範、片山 誠一、永井 賢司、宮川 誠
(三菱化学 安全科学研究所 鹿島研究所)

● P-71

去勢ラットの前立腺腺葉におけるアポトーシスを指標とした *in vivo* 抗アンドロジェン活性評価系の検討

○ 片山 誠一、成見 香瑞範、岡村 隆之、永井 賢司
(三菱化学 安全科学研究所 鹿島研究所)

● P-72

フルタマイドの胎児期・新生児期曝露によるF1雄ラットの生殖系ホルモン応答および精巣機能に及ぼす影響

○ 藪下 晴津子¹⁾、須方 督夫¹⁾、佐野 真士²⁾、吉野 裕子²⁾、宮田 かおり¹⁾、奥野 泰由¹⁾ (住友化学工業(株) 生物環境科学研究所、²⁾大雄会医科学研究所)

● P-73

ビスフェノールAの新生児期投与による雄ラット生殖系に及ぼす影響

○ 加藤 英男、内藤 一嘉、吉島 賢一、太田 隆雄、古橋 忠和、岩田 寿雄 ((株)日本バイオリサーチセンター 試験管理部)

■ 環境ホルモン

● P-74

静注用脂肪乳剤の静脈保護作用に関する実験的検討

○ 桑原 孝¹⁾、朝波 省吾²⁾
((株)大塚製薬工場¹⁾ 応用開発部、(株)大塚製薬工場²⁾ 専門研究所)

● P-75

飲料水中の強力変異原性物質“MX (3-Chloro-4-(dichloromethyl)-5-hydroxy-2(5H)-furanone)”の毒性評価

○ 広瀬 明彦¹⁾、西川 秋佳¹⁾、木苗 直秀²⁾、長谷川 隆一¹⁾ (¹⁾国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター、²⁾静岡県立大学 食品栄養科学部)

● P-76

マウスを用いた催吐作用の検出

○ 高木 観、安東 賢太郎、稲村 直樹、井上 裕章
(三菱東京製薬(株) 横浜研究所 安全性研究所)

● P-77

CPP法に関する基礎的検討：ベンゾジアゼピン系薬物における強化効果の検出

○ 宮脇 出、堀江 泰志、小関 直輝、船橋 斉、松岡 信男
(大日本製薬(株) 開発研究所)

■ その他

● P-78

フローサイトメーター (EPICS XL) の骨髄検査への応用に関する基礎研究

○ 三浦 大志郎、小林 充、尾形 昭子、古川 純子、飯島 剛、小池 行也、
宇野 洋 (帝人 (株) 医薬開発研究所 安全性研究部)

● P-79

摂餌量減少と関連した血液学的パラメーターならびに尿検査値の変動についての
検討2 - 若齢ラットと成熟ラットの比較検討 -

○ 井口 綾子、西 直樹、沢多 美和、松井 明子、飯野 由香、
木ノ本 寿子、白石 裕美子、小川 秀治、米良 幸典
(ゼリア新薬工業 (株) 中央研究所 開発研究部)

■ 反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究

● P-80

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究：
5-FU を用いた2及び4週間反復経口投与比較試験

○ 松本 博隆、猪又 晃、林 万律子、堀井 郁夫
(日本ロシュ (株) 研究所 前臨床科学研究部)

● P-81

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する研究
- Adriamycin (ADR) 単回静脈内投与後の2及び4週間休薬による精巣毒性
の比較検討 -

○ 恒成 一郎、河内 護、松丸 剛久、勝木 昭次
(日本ベーリンガーインゲルハイム (株) 川西医薬研究所)

● P-82

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
(塩酸フェドロゾール：2及び4週間反復経口投与)

○ 川下 浩人、平塚 一幸、黒田 淳二、浅田 義人、鈴木 忠徳、
六車 幸美、富岡 聡子、谷 泉乃、近藤 正秀、峯島 浩、永江 祐輔
(ノベルティスファーマ (株) 筑波研究所 安全性研究グループ)

● P-83

反復投与によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
-レセルピンの2週間あるいは4週間皮下投与による精子形成への影響-
○川村 信之、堤 俊輔、竹下 修史
(アベンティスファーマ(株) 開発研究所 安全性研究室)

● P-84

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
1) Ethynylestradiol の2週間反復経口投与毒性試験
○大信田 系裕、宮本 庸平、上田 耕平、大森 英隼
(東レ(株) 医薬研究所 安全性研究室)

● P-85

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
2) カルモフルの28日間及び11日間投与
○古川 雅一、唐鎌 利雄、梶 政好、五味田 忍、吉村 正寿、渡部 則充
(三井製薬(株) 生物科学研究所)

● P-86

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
4) Etoposide の2及び4週間静脈内投与による影響の比較
○川口 雅子、長岡 有紀、香川 雅孝、葛西 靖広、和知 正幸
(日研化学(株) 大宮研究所 安全性研究室)

● P-87

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
5) Ethylene glycol monomethyl ether の2週間および4週間投与による
雄性生殖器官に対する影響
○渡邊 厚、中野 雄司、遠藤 貴子、佐藤 則博、甲斐 清徳、白岩 和己、
小林 洋四郎(旭化成工業(株) ライフサイエンス総合研究所 安全性研究所)

● P-88

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
-7. 新規白金錯化合物の2週間、4週間および単回投与による精巣毒性-
○三沢 保幸、渡辺 一人、桜井 貴之、藤井 悦子、塚本 こすえ、
加藤 淳彦、杉本 哲朗(中外製薬(株) 安全性研究所)

● P-89

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
8) アドリアマイシンの2週間および4週間投与試験

○ 足立 民子、西村 友成、新比恵 啓志、山村 高章、池尾 富弘
(田辺製薬(株) 安全性研究所)

● P-90

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
10) E7010 の2週間反復投与による精巣毒性の検討

○ 奥田 恭之、早川 和宏、田代 俊文、佐藤 国夫、葛山 富春、
岡田 文弘、細川 暁、佐神 文郎 (イーザイ(株) 薬理安全性研究所)

● P-91

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
11) Cyclophosphamide の2週間および4週間経口反復投与の影響

○ 渡邊 隆夫、山口 則和、秋葉 知英、田中 雅弘、滝本 正美
(興和(株) 富士研究所 安全性研究部)

● P-92

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
12) Estradiol Benzoate の2週間および4週間の反復皮下投与の影響

○ 秦 純子、高橋 洋之、中原 千穂、並木 歩、浅野 哲、宇野 洋
(帝人(株) 医薬開発研究所 安全性研究部)

● P-93

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
13) メチルメタンサルホン酸 (MMS) での2週間および4週間投与試験

○ 小沢 重成、横井 亮平、北村 毅、栗山 和也、小林 一男、柴田 信男
(キッセイ薬品工業(株) 安全性研究所)

● P-94

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
15) シクロフォスファミド単回経口投与の影響

○ 松本 智志、平川 芽衣子、下元 貴澄、佐藤 亮、北浦 敬介、南 孝則
(大塚製薬(株) 徳島研究所 毒性研究部)

- P-95
 反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
 (17) レセルピンの2あるいは4週間皮下投与試験－
 ○山内 研司、高浦 由美、仲辻 俊二、能登 貴久、三枝 雅、大石 裕司、
 寺井 孝雄、橋本 正晴、小原 要（藤沢薬品工業（株）安全性研究所）

- P-96
 反復投与によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
 18) エノキサシンの2週間反復投与による検討
 ○木澤 和夫、古坊 真一、三善 隆広、河村 泰仁
 （富山化学工業（株）総合研究所安全性研究所）

- P-97
 反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性評価に関する共同研究
 20) エチニルエストラジオールの2および4週間反復投与による影響
 ○木ノ本 寿子、沢多 美和、小川 秀治、井口 綾子、松井 明子、
 飯野 由香、白石裕美子、西 直樹、米良 幸典
 （ゼリア新薬工業（株）中央研究所 開発研究部）

- P-98
 反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
 22) ホウ酸のラットにおける2及び4週間反復経口投与による精巣毒性試験
 ○工藤 哲、棚瀬 裕文、山崎 正和、中尾 麻衣子、宮田 友貴、
 都留 清志、今井 繁（杏林製薬（株）研究センター 安全性研究部）

- P-99
 反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
 23) 2週間反復投与によるホウ酸のラット精巣毒性の検出
 ○福田 良¹⁾、廣出 充洋²⁾、森 郁生³⁾、森島 英喜¹⁾、茶谷 文雄¹⁾、
 馬屋原 宏³⁾（武田薬品工業（株）創薬研究本部 ¹⁾薬物機能第二研究所、²⁾薬物機能第一研究所、³⁾研究推進部）

- P-100
 反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
 25) ピリメタミンの2または4週間反復投与による影響
 ○村上 善紀、武田 匡嗣、鈴木 義治、藤井 久子、小笠原 裕之、
 増田 達樹（日本ワイズレダリー（株）医薬研究所）

● P-101

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
26) Theobromine の2週間および4週間投与による精巣毒性評価

○船橋 斉、藤岡 美智、河内 眞美、立石 湯美、松岡 信男
(大日本製薬(株) 開発研究所)

● P-102

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
- 28) 1, 3-dinitrobenzene によるラット精巣および精巣上体の病理組織学的変化の2週間反復投与毒性試験による検出 -

○入村 兼司、山口 昌宏、森永 秀信、杉本 繁夫、近藤 泰史、
小井田 雅弘(大鵬薬品工業(株) 安全性研究所)

● P-103

反復投与試験によるラット雄性生殖器官への毒性の評価に関する共同研究
29) まとめ

○堺 俊治¹⁾、高橋 道人²⁾、三森 国敏³⁾、安原 加壽雄³⁾、川島 邦夫³⁾、
馬屋原 宏⁴⁾、宮本 庸平⁴⁾、古川 雅一⁴⁾、河下 伸⁴⁾、川口 雅子⁴⁾、
中野 雄司⁴⁾、渡部 一人⁴⁾、池尾 富弘⁴⁾、川下 浩人⁴⁾、細川 曉⁴⁾、
渡邊 隆夫⁴⁾、浅野 哲⁴⁾、小沢 重成⁴⁾、土屋 毅幸⁴⁾、松本 智志⁴⁾、
林 万律子⁴⁾、山内 研司⁴⁾、三善 隆広⁴⁾、恒成 一郎⁴⁾、米良 幸典⁴⁾、
川村 信之⁴⁾、工藤 哲⁴⁾、福田 良⁴⁾、村上 善紀⁴⁾、船橋 斉⁵⁾、入村 兼司⁶⁾、
大瀧 芽久美⁷⁾、岡原 明彦⁸⁾、伊藤 今日子⁹⁾、大野 泰雄³⁾
(¹⁾山之内製薬(株)、²⁾昭和大学薬学部、³⁾国立医薬品食品衛生研究所、⁴⁾武田薬
品工業(株)、⁵⁾日本製薬工業協会基礎研究部会)